

# 第85回 医学教育セミナーとワークショップ

第24回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修 併催

2023年 5月24日(水)～26日(金) Web開催

参加登録期間 2023年4月3日(月)～13日(木) [事前登録制]

Webinar クロストーク 日比野克彦(東京藝術大学学長/岐阜県美術館館長)×西城卓也(MEDC)

**CD** 芸術がもたらす医療・医療教育の新しい視点

ナビゲーター: 川上ちひろ(MEDC)

WS-1 国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修共同企画

**ML** OSCEの運営の基本を教職協働で考える

藤崎和彦・早川佳穂(MEDC)、鈴木一吉(愛知学院大学)、池田行宏(近畿大学)、大戸敬之(鹿児島大学)、鬼塚千絵(九州歯科大学)

WS-2 「対話」で紐解く！多職種連携での思いのすれ違い

**ML**

佐野 樹(名古屋大学・三重県立こころの医療センター)、田島充土(東京外国語大学)、上原優子(大阪大学医学部附属病院)、正野温子(大阪赤十字病院)、橋本麻由里(岐阜県立看護大学)、後藤智子(泉佐野泉南医師会看護専門学校)、大下順子(三重県立こころの医療センター)、北 恵都子(岐阜協立大学)

WS-3 はじめの一步！～日本人の学習観を知り、より良い学習アプローチを考えよう～

**TL**

鈴木沙季(日本大学)、高橋 慶(医療生協さいたま川口診療所)、長谷由紀子(静岡県立大学)、濱田千枝美(産業医科大学)、森木紀博(関西学研医療福祉学院)、安田 恵(福島県立医科大学)

WS-4 医学生が多様性とは？:社会経済的格差の観点から考える

**ML**

鈴木康之・恒川幸司・西城卓也(MEDC)、武田裕子(順天堂大学)

WS-5 東海SPネットワーク共催企画

**TL**

“わかる”より“気づく”を増やす、対話型アート鑑賞のすゝめ。

～医療者と患者、一期一会のコミュニケーションのあり方～

森永康平(獨協医科大学)、石黒一美(日本歯科大学)、奥原真仁(旭川市立大学)、東海SPネットワーク

WS-6 医学教育連携を進める！～診療科・施設文化を超えて～

**CD**

高見秀樹・木村武司・村松友佳子・近藤 猛・尾上剛史・錦織 宏(名古屋大学)

タイムスケジュール

タイムスケジュール	
5/24(水)	13:00-16:00 WS-1(教務事務職員研修共同企画)
5/25(木)	9:00-12:00 WS-2
	13:00-16:00 WS-3
	16:30-18:00 Webinar
5/26(金)	9:00-12:00 WS-4 WS-5
	13:00-16:00 WS-6

実施要項



第86回  
富山大  
2023/10/6-7

第87回  
岐阜(Web)  
2024/1/18-20

第88回  
岐阜(Web) 併催  
第25回教務事務職員研修  
2024/ 春

医学教育共同利用拠点  
岐阜大学医学教育開発研究センター

TEL : 058-230-6470 FAX : 058-230-6468  
〒501-1194 岐阜市柳戸1番1  
E-mail : medc@gifu-u.ac.jp

MEDC

検索



## クロストーク 日比野克彦(東京藝術大学学長/岐阜県美術館館長)×西城卓也(MEDC) 芸術がもたらす医療・医療教育の新しい視点

ナビゲーター：川上ちひろ (MEDC)

概要： 医療現場では、これまで芸術を用いて患者への治療やケアが行われてきています。ホスピタルアート、ヘルスケアアートなど、芸術作品を用いた交流、病院のデザインを工夫するなど、国内外問わずさまざまな取り組みがされています。また最近、医学/医療者教育においても、芸術を用いた教育の実践がいくつかの大学で行われ始めています。このような現状から、芸術領域では多様性・個性・革新を重要としている価値観を、医学/医療の領域にどのように取り入れ融合させていくか、また芸術の領域において医療がどのようにとらえられているのかなどについて、芸術領域の第一線で活躍する日比野克彦氏と共に考えます。

WS-1 5月24日(水) 13:00-16:00

## 国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修共同企画 OSCEの運営の基本を教職協働で考える

藤崎和彦・早川佳穂 (MEDC) 鈴木一吉 (愛知学院大学) 池田行宏 (近畿大学) 大戸敬之 (鹿児島大学) 鬼塚千絵 (九州歯科大学)

概要： 2002年に医学部・歯学部で、2006年に薬学部で全国導入されたOSCEですが、医学部では2023年度より臨床実習前のOSCEが公的化され、看護やリハビリテーション学校でも広く取り入れられるようになってきました。しかしながら、他の学部や大学がどのようにOSCE運営をしているのか、共有したり情報交換をしたりする機会は意外と少ないものです。本ワークショップでは、まずは基本知識として、OSCEはどのような評価方法であるかということ学びます。そして、OSCE運営の事例を共有し、教員、事務職員それぞれの視点で運営に関する様々なディスカッションを行うことで、より円滑な運営へのヒントが得られることを期待しています。現在運営に関わっている教職員はもちろん、これからOSCEを教育に取り入れたいと考えている医療教育関係者の参加をお待ちしています。

対象： 医学部・歯学部の教員・教務事務職員、OSCE運営に興味がある医療者教育関係者

定員：50名

WS-2 5月25日(木) 9:00-12:00

## 「対話」で紐解く！多職種連携での思いのすれ違い

佐野 樹 (名古屋大学・三重県立こころの医療センター) 田島充士 (東京外国語大学) 上原優子 (大阪大学医学部附属病院) 正野温子 (大阪赤十字病院) 橋本麻由里 (岐阜県立看護大学) 後藤智子 (泉佐野泉南医師会看護専門学校) 大下順子 (三重県立こころの医療センター) 北 恵都子 (岐阜協立大学)

概要： 専門職同士の連携で起こる思いのすれ違い(モヤっと)と向き合い、解きほぐすには内省や対話が重要になります。自他の職種の思考、行為、感情、価値観を振り返り、複数の職種との連携の経験をより深く理解し、連携に活かす必要があるからです。この「モヤっと」をケアや教育実践に活かすため、私たちは2014年から多施設の多職種で月1回1時間のオンライン研究会を行ってきました。研究会ではモヤっとが起こった実践共同体を離れて、同じ実践共同体に属していない者同士がお互いにモヤっとした事例についての内省を共有し合います。このような共同的内省を行うことで、内省は孤独で内向きな「分かったつもり」的行為から、他者や世界に開かれた響きあう対話へ、新たな内省へと繋がります。そうして生まれた響き合う対話は、モヤっとを感じた対象への見方を変化させ、モヤっとが生じた場面を再構成することに繋がり、実践共同体での新たな対話を生み出す可能性をもたらすものです。本ワークショップでは、みなさんが体験したケア/教育現場でのモヤっとを題材にこの共同的内省や対話を体感し、ロシアの思想家ミハイル・パフチンのダイアログ概念を参考にしながら、ケア/教育実践における多職種連携の「対話(ダイアログ)」について深い理解を目指します。

対象： 大学教員、病院勤務医、保健医療福祉専門職

定員：30名

## はじめの一步！～日本人の学習観を知り、より良い学習アプローチを考えよう～

鈴木沙季（日本大学）高橋 慶（医療生協さいたま川口診療所）長谷由紀子（静岡県立大学）濱田千枝美（産業医科大学）森木紀博（関西学研医療福祉学院）安田 恵（福島県立医科大学）

概要： 欧米では、一般的に使われていたり、学習効果が高いとされている学習アプローチが、日本人の学習者に対してはうまく機能しなかった、という経験はありませんか？学習に対する認識や姿勢などは、その国の文化観に強く影響すると考えられています。欧米の学習者と日本人の学習者は、文化的に考え方が違いそう、というのは直感的に理解できても、具体的に何がどのように違うのかを説明することは意外に難しいものです。このワークショップでは、日本人が学習というものをどのように考えていて、どのような学習アプローチを好むのか、というような『学習観』を学び、それを世界各国の学習者の学習観と比較をしながら、日本人の学習者にはどのような学習アプローチが受け入れられやすいのかを考えていくことを目的としています。自施設での学習アプローチの事例を持ち寄って、文化的な観点から意見交換を行い、最後に全体で共有していきます。

対象： 医療者教育を担当している方、臨床で指導されている方、医療者の教育に関心のある方 定員：25名

## 医学生の多様性とは？:社会経済的格差の観点から考える

鈴木康之・恒川幸司・西城卓也（MEDC）武田裕子（順天堂大学）

概要： 2018年の医学部不正入試に端を発して、男女差別や多浪生差別がクローズアップされたが、厳しい医学部受験競争に社会経済的格差が大きく関与している現実については正面切って語られてこなかった。2019年度東京大学入学式の祝辞で上野千鶴子氏が指摘した構図が医学部入試にも厳然と存在している。このワークショップでは、まず医学生の社会・経済的背景の実態を知っていただき、問題意識を持って考え始め、語り始めることを目的としたい。なお本ワークショップは基盤研究（B）「我々は将来の医療を誰に託すのか？医学部入学者の社会的背景の解明」によって実施します。

対象： 社会経済的格差と教育格差に関心のある教員・医療職・学生 定員：25名

### 東海SPネットワーク共催企画

## “わかる”より“気づく”を増やす、対話型アート鑑賞のすすめ。 ～医療者と患者、一期一会のコミュニケーションのあり方～

森永康平（獨協医科大学）石黒一美（日本歯科大学）奥原真仁（旭川市立大学）東海SPネットワーク

概要： 東海地区の医療系大学が行っている「東海地区SP勉強会&交流会（第14回）」との共催企画で、全国の皆さまにご参加いただける拡大版として開催します。  
病院実習前の模擬患者（SP）が参加するコミュニケーション教育はそれまで座学を中心に学んでいた学生が、医療従事者になるという実感が高まる非常に重要な時間といえます。SPの育成や成長については継続的な学習やトレーニング、振り返りが不可欠ですが、学生の視線や仕草、言葉遣いなど広い意味での観察力や、得た情報を的確に表現するための言語力の重要性は誰しも感じているでしょう。今回紹介する対話型鑑賞はアート作品の史実や知識などを一方的に鑑賞者に提供するのではなく、作品を観た時の気づきや感じ、考えたことを重視し、またそれをその場のメンバーとも共有することで更に理解を深めていく手法です。  
医療者と患者の中で交わされる、言葉や視線の新鮮さや尊さを覆い隠しかねない社会構造の変化を私達は自覚しているのでしょうか。一期一会のコミュニケーションの重みを“気づき”から再認識していきましょう。

対象： 模擬患者、模擬患者養成者、対話型アート鑑賞に興味のある医療者 定員：50名

# 医学教育連携を進める！～診療科・施設文化を超えて～

高見秀樹・木村武司・村松友佳子・近藤 猛・尾上剛史・錦織 宏（名古屋大学）

概要： 多様化する医学教育業務を限られた人材で展開していくためには、教育に関わる教員や職員の業務負担軽減が鍵となる。折しもモデル・コア・カリキュラムにて目標や学習内容の標準化がなされ、これを元に施設間の教育リソースを共有することで、負担軽減やさらなる教育品質の向上が期待される。我々は東海国立機構として名古屋大と岐阜大の各方面に渡る教育連携をこれまで試みてきた。その中で、例え標準的な内容であっても、その実装には各施設の制度や文化という壁を乗り越えていく必要があることもわかってきた。その実践を共有し、参加者とこれまでの医学教育連携の可能性や課題について議論することで、これからの医学教育連携の在り方やその方向性を探りたい。

対象： 他施設との医学教育連携に興味がある、もしくは実践されている医療関係者・事務職の方

定員：30名

## 参加登録方法

MEDCホームページよりお申込みください  
「MEDC」で簡単検索できます

**参加登録期間： 2023年4月3日(月)～13日(木)**

参加を希望される方は、上記期間内に参加登録をお願いします。  
各企画には定員を設けています。申込順にて受付いたしますので、ご了承ください。  
なお、当日参加は受付いたしません。

参加費： 2,000円  
(学部学生、東海国立大学機構教職員大学院生 無料)

開催方法：Zoom(Web会議システム)

### 医療者教育学の基本を教職協働で学ぶeラーニングプログラム

#### “医療者教育学スターターキット”

- ★ 医療者教育機関で働き始めたばかりの教員、職員  
これから医療者教育学を学んでいきたいかたにむけたプログラムになっています。
- 🌙 新任の教員、事務職員にむけたFD/SDプログラムの1つとしてもご利用いただけます。

スターターキットは  
こちらから↓



詳しくはMEDCのHPで↓

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/medicaleducation/starterkit.html>

### MEDCが提供する学びの宙

全国の医療者教育に従事する人を対象として、  
“人材育成者の育成”に取り組み続けています。

